

平成28年 新春飾り物展

1月15日(金)～17日(日)に開催した「新春飾り物展」には、多数の市民の皆様にご来場いただきました。審査結果は以下のとおりです。(敬称略)

●干支「申」

- | | | |
|-----|------------|------------------|
| ◇天位 | 「狂言 韋猿」 | 星文達守(大新町2) |
| ◇地位 | 「猿カニ合戦」 | 八幡鳳凰台組飾り物同人(大新町) |
| ◇人位 | 「猿回し」 | 宮部龍彦(大新町1) |
| ◇佳作 | 「猿も木から落ちる」 | 長瀬清栄(下一之町) |
| | 「孫悟空と勅斗雲」 | 養田祐三(天満町6) |
| | 「三猿」 | 玉腰健三(八幡町) |

●歌会始「人」

- | | | |
|------|-----------|------------|
| ◇天位 | 「一寸法師」 | 荒川正康(大新町3) |
| ◇地位 | 「人の和」 | 野澤竜弥(冬頭町) |
| ◇人位 | 「人間ドック」 | 小島政人(大新町2) |
| ◇飾り物 | 同好会賞 「船頭」 | 竹腰英樹(岡本町2) |
| ◇佳作 | 「人類月に立つ」 | 若田義隆(大新町1) |
| | 「人情囃」 | 橋本 大(八幡町) |

●ヤングチャレンジ部門

- | | | |
|-----|-------------|-------------|
| ◇入賞 | 「猿団子」 | 水尻 亮(高山西高校) |
| | 「親のかたき…!!!」 | 出井実咲(斐太高校) |
| | 「バナナを見ざる」 | 幅上真穂(高山西高校) |
| | 「申剣」 | 脇坂真加(斐太高校) |
| | 「人のつながり」 | 熊崎貴太(高山西高校) |



別院前の縁日風景

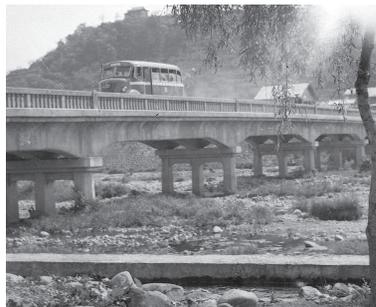
今回は、飛騨高山まちの博物館に収蔵されている高山市指定文化財「角竹郷土史料文庫」から、ガラス乾板などをお借りして「懐かしい飛騨高山の姿」を紹介します。ガラス乾板は、明治初期から大正、昭和初期にかけて使用されました。割れやすく取り扱いが難しいため、残っているものは多くありません。そんな貴重な写真を現代の技術でプリントし、原版と共に展示します。今では見ることでできない風景や文物、肖像画などが記録されており、この機会にぜひご覧ください。

文化協会特別展 懐かしき飛騨高山・ガラス乾板写真展

2月19日(金)～21日(日)開催

（一社）高山市文化協会では、毎年テーマを変えて郷土に関する特別展を開催しています。今回は、飛騨高山まちの博物館に収蔵されている高山市指定文化財「角竹郷土史料文庫」から、ガラス乾板などをお借りして「懐かしい飛騨高山の姿」を紹介します。ガラス乾板は、明治初期から大正、昭和初期にかけて使用されました。割れやすく取り扱いが難しいため、残っているものは多くありません。そんな貴重な写真を現代の技術でプリントし、原版と共に展示します。今では見ることでできない風景や文物、肖像画などが記録されており、この機会にぜひご覧ください。

- ◇日時 二月十九日(金)～二十一日(日) 午前10時～午後5時(最終日は午後四時まで)
- ◇会場 文化会館三階講堂
- ◇入場無料



連合橋とボンネットバス

一千万円を文化会館整備基金に寄付

当協会は、一月一日に開催した平成二十八年新年市民互礼会会場にて、高山市に一千万円の寄付をしました。



これは先の市議会にて議決された「高山市民文化会館整備基金」に基づいて行ったものです。今後当協会では、広く市民の皆様からも寄付を募りこの基金の拡充を図って、新文化会館建設の実現に向けて努力します。その一環として、現文化会館及び文化伝承館に募金箱を設置しますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

（一社）高山市文化協会加盟団体文化協会後援 催事案内

- ◆第一回ヤマハジュニアピアノコンクール コサカ楽器選考会
- ◇日時 二月六日(土)午後一時～、七日(日)午前九時半～
- ◇会場 文化会館小ホール
- ◇入場無料
- ◇光ミュージアム特別展 『花鳥風月展』
- ◇日時 二月二十七日(土)～六月十二日(日) 午前十時～午後五時(水曜休館)
- ◇会場 光ミュージアム(中山町)
- ◇料金 入館料が必要

記事訂正

先号の「高山の文化を高めた人々 松葉惣四郎」文中の「製紙工場」は「製糸工場」の間違いでした。お詫びして訂正します。

「風目(目)」

郷土の力士、白真弓肥太右衛門は、できることなら飛騨右衛門の方がよかったのにと。力士は、やはり肥太太っている方が強そうに思えたのか、「飛騨」が「肥太」になった。しかしこの四股名は、その後「燈洋(ひうちなだ)荒五郎」や「駒ヶ嶽峰五郎」や「浦風林右衛門」に変っている。スポンサーのお抱え大名が変わったりしたからだろう。

ペリー艦隊が来た時に、米俵を背中、首、両手に合わせて八俵を運んで見せて、アメリカ人を驚かせたという力持ちだったそう。

その白真弓の星取表を見てガツカリした。前頭筆頭まで上がっているが、一年二場所所の昔に、勝ち越した場所は少ない。当時の一場所は十日間だが、引き分けや休場も多い。「預り」というのもある。結果として、嘉永六年から明治元年までの通算三十場所、五十八勝百二十三敗十七分け五預り七十一休場となっている。負けの方が多い。

白真弓は「突き」が得意技だったが、強過ぎて相手が危ないの禁止手となっていた。もし、許されていたら横綱になっていたと信じてみたい。

砂付けて 男を磨く 相撲取り
(ガンモン毛筆)